

はしがき

第 158 回の大会予稿集をお届けします。今回は 6 月 22 日（土）・23 日（日）の二日間一橋大学（東京都国立市）を会場としておこなわれます。今回の言語学会開催に際しては、シンポジウムを企画していただいた大会実行委員長の庵先生はじめ一橋大学の言語関係の方に多大なる尽力をいただきました。また、山越大会運営委員長を中心として、発表の選考、プログラムの作成をしてくださった大会運営委員の皆さま、当日司会を担当してくださる先生方、選考・審査にあたられる発表賞選考部会および審査員の皆様に感謝いたします。

今大会の公開シンポジウム（6 月 23 日）は「アスペクト研究の新しい視座としての「テイル」研究—日本語学から一般言語学への貢献—」という題で、日本語アスペクト研究を一般言語学的な観点をまじえて、新しい観点から検討されます。

今大会は、口頭発表 88 件、ポスター発表 8 件、ワークショップ 3 件という応募数に対し、口頭発表 49 件、ポスター発表 5 件、ワークショップ 3 件という結果となりました。会場の都合もあり、これまでの大会に比べ多少口頭発表の数がすくなくなっていますが、これまでの大会と同じように内容は多彩で、扱われる言語の数も、よって立つ理論的枠組みも多岐にわたります。手話に関する発表でセッションが構成されているのも注目されます。研究手法に関しても、実験的手法、フィールドワーク、計量的研究等とこちらも多彩です。今大会では多くの若手、中堅の研究者にまじって、大家の口頭発表もあり、その点でも変化に富むものになっています。これこそが日本言語学会の特長であるといえるかと思います。

ワークショップもこれまでとはすこしちがうテーマのものが開催されますので、楽しみに参加していただければと思います。

言語学会は紙媒体の予稿集はなくなり、pdf によるもののみにになりましたので事前にダウンロードしておかれるか、ご自分で印刷してお持ちください。会場では電波の状況で wifi などが利用しにくいことも考えられますので、前もっての準備をお勧めします。

次回 159 回大会は 11 月 16-17 日に名古屋の名古屋学院大学で開催される予定です。

2019 年 6 月
日本言語学会会長 田窪 行則